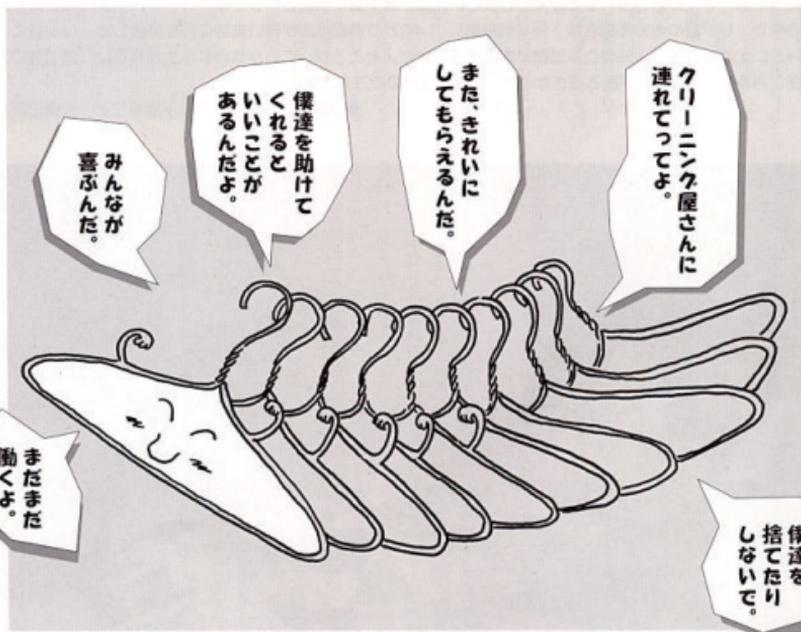


ごみを減らそう!!



●取材協力/京都府生活学校連絡協議会、三協社、白津会京都支店
●イラスト/田 三千代 (スタジオ・タリ)

gomi情報最新線

クリーンアップで忙しげもなく使っている針金ハンガー。もういっしょにしないでいいわけがない。捨てたとしてもごみを破つたり、回収作業にあたる人を傷つけたりする危険な存在だ。それに、ごみ燃却時の化学変化も気がかりだ。店頭で回収して再利用するのが一番いいのだが、現状は、どうなのだろうか。針金ハンガーは、1本6〜7円程度で生産され、針金を芯に、ポリプロピレンで塗装仕上げされている。

宇治市に本部をおくクリーンアップチェーン・三協社では、平成6年から10本単位で店に持ち込めば、クリーンアップを10割引きするシステムをスタートさせた。それ以来、約40%の針金ハンガー（日平均60〜80本）が回収されているという。集まったハンガーは、曲がったり、塗装が剥けたりして別ルートで再生するものと、そのまま再利用できるものとに分別（50%が再利用可能）。廃棄するものは業者を通して宇治市のごみ処理場に持ち込んでいる。再利用できるものは、洗って、ふきんで拭いて再び使用している。

三協社のような特典のあるシステムではなくても、いくつかのクリーニング店では、お客様の持ち込みによる店頭回収を受け付けている。また、流通でのハンガーは量販店を主体にリサイクルシステムが導入され、産業廃棄物として捨てられていたハンガーの大量削減が実施されている。

買い物袋持参運動を広げよう。

だれでも、すぐに始められるごみ減らし策といえば、まず買い物袋の持参が挙げられる。京都市の家庭ごみの中で、レジ袋の占める割合は7%（容積量）。146万の京都市民が買い物時に袋を持参して、レジ袋にノーといえば、確実に7%のごみ減量が実現するわけだ。ところが、これがなかなか広がらない。流通側に責任があるのか、消費者が後ろ向きなのか。異なる立場のご三方に登場願った。

●出席者 細木京子氏 小阪省三氏 大橋正明氏



渡す側も受け取る側も
レジ袋に対して無意識すぎる。

（大橋）

小阪●1970年代、大型スーパーの発達に伴い急激にレジ袋が普及していききました。それまではだれもが買い物力コを持って買い物に行ったものです。現在、私が店長を務めるヘルプに買い物袋を持参する人は、せいぜい10人中1人でしょう。店内に有料の袋（布製620円）を備えているのですが、買う人は少ないですね。

細木●私は、家の近くにある京都生協のお店で13年前から買い物袋持参運動に取り組んできました。使い捨てを止め、子どもたちに物を大切にすることを教えよう、そして、ごみを減らすことという京都生協の方々と、レジの横に立って「買い物袋を持参しましょう」と、一人ひとりに呼びかけてきたのです。時には毎日出向きました。「なぜ、そんなことをなあんの？」と、あきれられたりしたことまでありました。でも、ただただごみを減らし、地球環境を守りたい思いで続けてきました。その結果、呼びかけ前は1人1枚を手渡していたのが、呼びかけてからは0.3枚にまで減ったのです。12年という年月がかりましたが、それなりに理解が得られましたし、続けてよかったです。

大橋●僕は、時々大手スーパーのレジのそばで買い物の様子を観察します。ほとんどのス

【小阪省三 (こさか しょうそう)】

ヘルプ (左京区一興寺裏通り) 店長。1974年 (昭和49年) マルシンプードを母体に自然食品を主体としたヘルプを創業。1979年 (昭和54年) (株) ヘルプを設立。地球環境保全や安全食品への意識を持ち、職員包装などを実施している。

小阪●確かに、その通りです。私は今年の5月アメリカを訪れましたが、どのスーパーも売り場が多いのに驚きました。青果は盛り上げてあるし、生鮮食品は計り売りやバラ売りがされています。過剰包装がないのには感心しています。

買ひ物袋とは、直接、関係ないかも知れませんが、健康を育む食べ物は過剰包装をしていない、健全な食品を売る店は、過剰サービスマしなというふうな、物の流れさえも見直す必要があるのかも知れません。

小阪●確かに、その通りです。私は今年の5月アメリカを訪れましたが、どのスーパーも売り場が多いのに驚きました。青果は盛り上げてあるし、生鮮食品は計り売りやバラ売りがされています。過剰包装がないのには感心しています。

てしまいました。アメリカでは管理主義や環境への意識がごく普通に根付いているのです。大橋●そのアメリカのスーパーのむき出しの陳列がきれいなんですね。青果の色鮮やかさがそのまじりかされて、不潔なイメージを脱く余地もないうらいで、そこらで、ドイツをはじめヨーロッパの多くの国では、買ひ物袋の持参が常識になっています。店舗で袋を作り、配布しているケースも少なくありません。ヨーロッパ暮らしを経験した人から「なぜ、日本ではレジ袋を当たり前のように受け取るのか? どうして袋を持つていけないのか?」と思ってしまうくらいにされたことがあります。僕自身、返答に詰まっています。

(細木)

買ひ物袋持参運動は、流通側と消費者の協力があってこそ定着する。

「断った時の店員さんの不快そうな表情!。仕事上の邪魔をされたしからうえたいないですね。」
「一枚のレジ袋を渡さないことがこみを減らし、地球環境を守る。ひいては私たち人間の命を育む行為だ」という認識は皆無です。レジでの対応をマニュアル通り

細木●買ひ物袋の持参は、やっぱり思えばこれでもうすぐできるごみ減らし活動です。困難さは、確かにあるけれど、私自身12年間の実績を通して、呼びかければやれるという確信を持っています。もっともって広げていきたいですね。

大橋●それにしても流通側の対応はなんとかならぬものではないでしょうか。レジ袋は要り

で、ほんとうに残念です。

細木●確かに「袋は要りません」というタイミングが難しいですね。商品を出す前に買うのがコツです。もう少し、目先のことやマニュアルにとらわれず地球環境や私たちが身に抱いていることをしているという認識に立って、お互いが協力し合いたいという意識が、自然とリサイクルのことが環境問題の目ざるところです。買ひ物袋持参運動は、消費者だけの意識を改革して実践すればいいというものではありません。流通側の協力があってこそ可能になるのですから。これまでの実績を通して、やれるという確信は持っていますか?。



【細木京子 (ほそき きょうこ)】

J.E.E. (日本環境保護国際交流会) 事務局長代表。消費生活コンサルタント。買ひ物袋持参運動をすすめる中で、消費生活に関心を持ち、京都市消費生活センターにてきせき館にむかひ相談員を務めた。現在は、J.E.E.の代表として、リサイクルマップの作成、環境力リーダーの制作などに多忙を極めている。

小阪●うちでは、現在、基本的には買ひ物袋をされたお客様にレジ袋を渡しています。ただ、流れ作業的には対応していません。レジ袋はいろいろの研究を重ねた末に、ごみとして捨てられ廃棄されることを考え、無公害の炭酸カルシウム入りものにしてはいますが、買ひ物袋持参は大歓迎です。顧客が多く、持参されるお客様には快く対応しています。

細木●レジ袋は、石油製品です。焼却時は微量ながらCO₂が発生します。簡単に使い捨てられていますが、実際には一枚3〜5円のコストがかかっています。生産工場も見学しましたが、生産工程で用いられている有機溶剤は、作業をされる方の健康を心配していること、そして、それに溶剤などの処理も問題です。レジ袋に印刷されるインキはカドミウムを含んでいると聞きますし、レジ袋は、実に多くの問題をばらんでいます。

大橋●お店によっては、買ひ物袋を持参するとペナルティを押ししたり、その経費分を環境団体に寄付しないしてはいますが、どうもレジ係に浸透してないことが多いですね。質問しても「あー!」とか、生半可な答えしか返っ



【大橋正明 (おほし まさあき)

環境市民理事。日本でも指所りのNGOとして知られる環境市民の設立当初から参加。理事として組織の基盤づくりに参加してきた。動物販売の大手広告代理店・大広では、地球環境プロジェクトチームのリーダーを務める。

できません。これでは運動への理解が深まるわけがない。

細木●買い物袋持参運動は、あくまで目的への共感に導かれて行うべきで特典など、姑息な手段で煽るようなものではないと思います。そんなところで持参されても長続きはしないでしょうね。

小阪●歴史はくり返すと言いますが、僕はたぶん買い物袋や買い物かごが復活するのではと予想しているんです。ヘルプに来られるお客様は環境問題への意識を持っておられます。食品汚染にも敏感だし、数は多くはないけれど買い物袋持参組があられます。そういうお客様をオビニオンリーダーにして買い物かごが広がっていくような気がします。

大橋●京都の北の方では「振り売り」という習慣が残っていて、近郊の農家の主婦が採れた野菜を車に積んで売りにきます。「そこで野菜を買いに来る人は、現在も買い物かごを使っているようです」。

小阪●京都はそんなに広い都市ではないから、振り売りの習慣に習って、いつぞや買い物袋持参運動の発地としては、地球環境を思いやるごみ減らし運動として全国に広がるような展開ができないものでしょうか。それをいっせいに始めると、いっせいに広がらざるを得ない可能性もありますね。

第一歩としてモデル店舗で買い物袋の実践を。

(小阪)

大橋●京都にはそもそも「せーのー」で市民が一掃になてなにかをする生活習慣があり、隣近所が連携しあって地域社会が健全に動いていたのです。大橋除などその代表例です。しかし今、「せーのー」はどこにもない。その良き習慣を振り起こす意味でもいっせいに買い物袋持参運動をやりたいですね。

小阪●行政が主導力を発揮して思い切った施策を展開するのが最も効果的では……。例えば、布製の買い物袋を大量に作り、百貨店・スーパー・小売店など、いろいろな流通に配布して買い物袋にシジ係から一斉流れて、市民に配布するなく、予算をかけ、流通の協力を得てやれないものでしょうか。第一歩としてまず、モデル店舗を設け、実験することからはじめるというですね。きちんとデータを取り、1年で買い物袋を持参する人が増えたり行く実例を示すことができれば、他の店舗に広がって

小阪●ヘルプが店を始める「ヘルプ」のしり手、買物かごの形など、他店でも買物かごは増えればいいと思います。



いくに違いありません。そして、モデル店舗をお手本に京都市の条例制定へと発展していくらしい。

細木●その持参されてならないのは、買い物袋持参運動がお店の経営に悪影響を及ぼさないということを証明することです。売り上げ、客数ともにマイナスにならないことを数値で示すことが、流通側の理解や共感を得る上、欠かせません。「レジ袋を渡さないことはサービス低下になりお客様を失う」と信じて疑わない流通に「レジ袋の提供がお客様が求めているサービスではない」と実感してもらったことが重要ですね。

大橋●モデル店舗での実験を元に、京都市ごみ減量推進会議が一掃に買い物袋持参運動のガイドラインづくりをしていく必要があるでしょうね。どうですか、小阪さん、一緒にやりませんか。

小阪●ぜひ取り組みましょう。店にとって直接的なメリットはないでしょう。面倒で費用が増えるし、大宮だし、しかしメリットを聞

問題ではありません。ごみ減らしと地球環境保全が目的なのでから。

大橋●買い物袋持参運動の広がりでごみが減り、エネルギー消費も減り、人間の健康な生活も維持でき、地球環境も守れるという善循環として伝えたい。買い物袋に「ノー」をせざるを得ないはずですよ。

細木●まずは、モデル店舗を皮切りに5年後には買い物袋持参を京都市の条例として制定されるよう前向きに動きたい。今年度の京都市ごみ減量推進会議の全市キャンペーン事業として「買い物袋デザインコンテスト」を、10月頃にスタートさせます。これが大きな飛躍のきっかけになると期待を膨らませています。



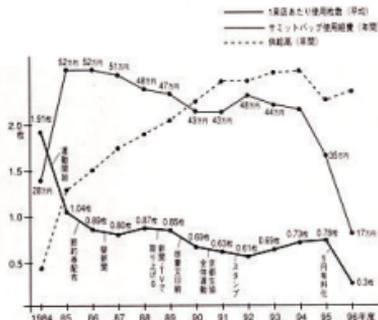
▲スウェーデンのスーパー「フォークス」の布製バッグ。素材はシーリングでマチもなくシンプルな手運び型。
●買い物袋持参/環境市民



▲ドイツの百貨店「ヘルティ」オリジナルの布製バッグ。持ち手が長く、ショルダーにもなる。ごみを減らそうのスローガンが入っている。

買い物袋 あれこれデータ

スーパーをはじめ、どの店でも選ぶレジ袋の実態は？それをつかまないと、運動も進められない。そこで京都府生活学校連絡協議会（中島和子会長）、J.E.E.（日本環境保護国際交流会・細木京子代表）の協力を得て、調査を実施した。



京都生協で細木さんたちが始めた
買い物袋持参運動12年間の軌跡を
追う。

こみ減らしへの思いから、細木京子さんははじめ、京都生協・鳥丸センター運営委員会の皆さんで買い物袋持参の呼びかけを始めたのは、1984年のこと。自宅近くの京都生協のレジ横に立ち、一人ひとりのお客に呼びかけた。その驚異的な成果は、なによりグラフの数値が物語っている。当初、19枚であった一来店あたりの枚数は、1年後には10枚に見えて減り、徐々にマイナスに。そして、12年後（1996年度）にはなんと0枚にまで減った。さらに、昨年レジ袋の有料化が進められたからは、0枚にまでダウン。流通側の負担も軽減され、こみも少なくなった。1店舗でスタートした運動が、京都生協全体の運動へと大きな輪となって広がっていき、徐々に値するこみ減らしの功績といえる。

なんと買い物袋持参率92%。
優良店舗があった。

食品を主体としたスーパーストア・サンデイ桂店（西京区桂木ノ下町）では、4年前の開店以降、米を購入した客に提供する以外には、レジ袋は渡さない方針を貫いてきた。持参しない客は、袋を10円で購入しなかった。午前11:30～正午12:00までの30分間、レジ横に立って買い物袋を持参する人を数えた。131名中、121名が持参で、買い物袋持参率は92%にも上った。

サンデイでは、毎週の折り込みチラシでも「お買い物袋を持参ください」と呼びかけている。また、店内で販売しているレジ袋の利益は福祉団体に寄付し、社会貢献している。驚くなげに、これが現実だ。

か、1回の買い物に、2枚3枚と渡している。店舗側にもお客にも使い捨てられるレジ袋が大量のこみになり、ポリエチレン製であれば焼却時には微量のCO₂が排出されるなどの害がある。それにも関わらず、私には関係ないという態度で環境への配慮は皆無である。これは、ミステリーより怖い話である。

だれでも応募してください。買い物袋デザインコンテスト開催へ。

買い物袋持参運動に弾みをつけるため、京都市こみ減らし推進会議・平成9年度全市キャンペーン事業として買い物袋デザインコンテストの開催が決定。細木京子さんを中心に、大橋正明さん、芝田直樹さん、吉村佳代子さんのグループが企画を練っている。応募作品の展示や表彰式も行う予定にしている。

また、使う側の目標で理想の買い物袋を追求し、市民が持ちたくなくなるような袋の制作を進めていきたいとしている。



イラスト/森とつる

多くのスーパーストアが、買い物袋持参には無関心で、レジ袋は基本的なサービスとして提供されているようである。その中のあるスーパーのレジに立ち、調査を実施した。7/27午前11:00～11:30。レジ袋を断ったのは59名中わずか2名であった。それも、きちんと買い物袋を持参したのではなく、1個だけ買ったので要らないなであった。この調査で、さらに問題として浮上したのがレジ袋の枚数で、スイカ、うなぎなどは個別に入れて手渡すようマニュアル化されているの

**買い物袋
デザインコンテストの展開**

10月中旬～11月中旬
デザイン一般公募
(デザイン画にて)

12月 市民による投票

1月 審査・デザイン展覧・表彰

2月 優秀作品の商品化検討

平成9年度通常総会開催 新年度事業がスタート



去る5月29日(木)

京都市ごみ減量推進会議は、京都府生活学学校連絡協議会総会アリス生活学学校運動部(委員長・井上健雄氏(イズミヤ(株)本社庶務部マネージャー)より、ごみ減量・リサイクルの具体的な実践事例が発表された。

また、特別会計によって秘密書類リサイクル事業の実施が条件となり、実行委員会の設置が決定した。その後、広瀬千寿氏(京都府生活学学校連絡協議会総会アリス生活学学校運動部(委員長・井上健雄氏(イズミヤ(株)本社庶務部マネージャー)より、ごみ減量・リサイクルの具体的な実践事例が発表された。

秘密書類、もう焼かないで
秘密はきっちり保持しながら
段ボール原紙に再生します

京都市ごみ減量推進会議は秘密書類リサイクル実行委員会を設け、7月8日より、厳しい情報管理を必要とする「秘密書類」のリサイクル事業をスタートさせた。安易に古紙回収に出せないため、ほとんど却却処分されてきたが、秘密書類も貴重な紙資源。膨大な不要書類の再資源化を進めようと、秘密書類の原紙に再生するシステムができあがった。まず、段ボール原紙に入った段ボール箱をそのまま専用トラックに積み込み、直接製紙工場へ運び、その日のうちに工場の溶解槽へ投入して溶かしてしまうという仕組みだ。回収業者さえも段ボール箱の中身を知ることのないこのシステムで、書類の秘密は完全に保持されている。料金は段ボール箱の大きさから換算した回収費で決まり、1梱当たり20円が基本で量が増えるほど割安になる。300梱を超えれば、超えた分は1梱あたり10円まで減額する料金設定になっている。1社では量が少なく割高になるような、本店・支店と併せたし、地域や同業者などグループを作ったりしてまとめて回収できるよこすことと便利。

これからは、秘密書類も「しつかり分けて、きっちりリサイクル」にまわす。今回の一歩進んだリサイクルシステムにより、1年後、ぐんと減少するにちがいない事業所のごみデータが楽しみです。



秘密書類リサイクルのシステムを紹介するパンフレット。参加手続書は、原則として京都市ごみ減量推進会議の会員になった上、申し込みを交付。詳細は事務局まで。

地域ごみ減量推進会議の設立に
向けて支援体制を整備

下鴨・松ヶ崎地域ごみ減量推進会議に続いて、各地で地域ごみ減量推進会議の発足を。そんな願いを込め、支援体制の柱となる助成要綱ができた。助成対象となるのは設立総会をはじめ、ごみ減量やリサイクルに関する活動で学童会や買い物持参キャンペーン、フリーマーケットなど。地域ごみ減量推進会議発足の芽となる内容であれば申請後、認可されると1団体につき上限10万円までの助成金が交付される。助成を希望する団体は、まずは申請を。

お互いのネットワーク強化を図
るため、ごみ減量会員名簿作成中

京都市ごみ減量推進会議の会員になったものの他の会員の顔が見えない。どこか誰か何をしているのかまったくつかみ方がない。多くの会員の要望に応えて、現在、名簿を作成中。平成9年度地域活動支援実行委員会の事業として去る5月29日(木)に開催された通常総会にて承認を受け、山内寛さん、めぐくん推進友の会(代表)、南さん(エコーリフ西日志)、羽川さん(リアリソク京都)など、自主的なメンバーにより名簿がつくられている。

事業者、市民団体、行政の立場の異なる組織で運営する京都市ごみ減量推進会議のユニークさを引き出す点でも、名簿の作成は意義ある事業であり、完成が待たれる。

「ごみアート展」に向けて 準備が進行中

空き缶討論会も同時に開催

平成9年度全市キャンペーン事業として承認を得た「ごみアート展」が開催に向けて動いている。ごみ減理事・郡高 孝（同志社大学経済学部教授）氏を委員長に、開催委員会は8月1日発足させ、事業が具体的に湧りだした。ごみを用いたアーティストの作品展示のほか、子どもたちのごみアートコンテストなどを盛り込んだ多様な内容。同時に空き缶討論会も開催することが決定し、ごみアート展の規模はスケールアップし、市民へのメッセージ力はいつとも高まるものと期待されている。

「ごみアート展」開催概要

事業名称／ごみアート展

開催期間／1997年（平成9年）

11月15日（土）～24日（月）

会場／元京都市立立誠小学校

（中川区豊島本町下北）

■ごみアート展

招待作家による作品展示

特別展示 股数 低（このしまたし） 溝作幸直展

■子どもたちの「ごみアートコンテスト」

幼稚園、小学生、中学生の参加による公募作品の展示と表彰

●空き缶かん・ペットボトル●トイ●紙パック

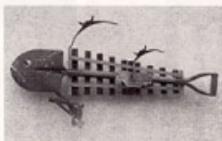
■ごみアートワークショップ

■空き缶討論会inごみアート展

缶飲料を飲む生活スタイルを持った一缶の増減点を浮き彫りにし、

ごみ減らしの行動のきっかけをつくる討論会

●コーディネーター 郡高 孝 バネラー16名



招待作家 M・ババッチ氏の作品

招待作家 八木マリヨ氏の作品



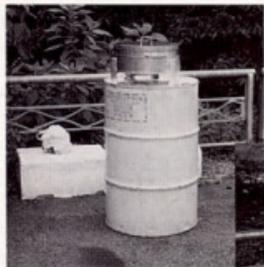
下鴨・松ヶ崎地域ごみ減量推進 会議が初のリサイクル・フェア を開催

去る4月1日～20日、今年1月に組織した下鴨・松ヶ崎地域ごみ減量推進会議が、左京区の下鴨小学校など3会場でリサイクル・フェアを開催。再生ペットボトルを原料にした糸で織ったカーテンをはじめ、食品トレーを再利用した植木鉢や空き缶を溶かして作ったライパンなどのリサイクル製品の展示を中心に、アルミと鉄の空き缶を分別する回収機の紹介、再利用できる粗品回収の案内のセミナーなど、ごみを減らしていくヒントを盛り込んだリサイクルの大切さを呼びかけた。

下鴨・松ヶ崎・栗の三学区の住民や商店街、各種団体が集まりフェアを開催してごみ減量の啓発を行った。

天ぶら油をリサイクル ディーゼルエンジンの燃料に転換する新事業 下鴨・松ヶ崎地域ごみ減量推進会議でスタート

家庭で使い捨てられている天ぶら油を回収しディーゼルエンジンの燃料に再生しようとモデル事業が下鴨・松ヶ崎地域ごみ減量推進会議でスタートした。地域内の約1万2,000世帯に呼びかけ、第1回収日の8月9日（土）午前10時～11時、下鴨小学校をはじめ、松ヶ崎小学校など6ヶ所の集会所で回収が実施された。設置されたドラム缶に各家庭の廃食油が入れられた。回収後は、民間プラント業者が、精製工場に持ち込み、再生油にする仕組みだ。この油は、京都市清掃局のごみ収集車を走らせるディーゼルエンジン燃料への使用が予定されている。今回のモデル事業では、家庭の廃食油の量を調べ、回収ルートを探るとともに、調査を実施し本格的な事業展開への足がかりをつかみたいとしている。



松ヶ崎浄水場正門側回収拠点



リカー6 フーズクラザギ前、回収拠点



ワークショップ 参加者募集

地域でごみ問題を考え、ひろげ、行動する人のための参加型学習会です。

会場等詳細は、京都市ごみ減量推進会議事務局へ。

(0221・4091)

〈第1期〉地域でのグループワーク

講師／西村仁志氏（環境共育事務所カラーズ）

10/16（木）10/25（土）午後1時30分～4時

〈第2期〉ごみを減らそう パートナリーシップが大切

講師／熊村 聡氏（環境市民）

9/27（土）9/30（火）午後1時30分～4時

〈第3期〉グリーンコンシューマー 買い物でごみ減らし

講師／堀 孝弘氏（環境市民）

9/9（火）9/13（土）午後1時30分～4時

ごみ問題を考え、広げ、自ら行動する人を育てようとする参加型学習会が開催される。この3月に開催されたワークショップに続くもので、地域ごみ減量推進会議のリーダー育成を狙ったカリキュラムが盛り込まれている。

地域でごみ問題に取り組む人のためにごみワークショップ開催

京の始末自慢シリーズ② 炭小屋

炭がちょっとしたブームだ。炭火焼コーヒー、ステークを筆頭に、その活躍ぶりには目を見張る。水の浄化作用があると、蛇口のフィルターに、保温効果があると入浴剤代わりに。その他、脱臭や科学的根拠は不明だが電磁波対策、アトピー対策と、実に多岐だ。先日、ある新聞で洗剤を使わない洗濯法が紹介されていたが、汚れ落としになんと炭が用いられていた。紀州・備長炭はブランド品として大手を振るい、スーパーではわずか2個が650円で売られている。

炭は本来、燃料であった。ガスや電気のない時代、貴重な暖房の原料であった。明治初期、日本にたびたび渡来したウィリアム・モースは、1878年（明治11）11月の日記に「人々は手足をむき出しにしたままで、店も開けっ放しである。唯一の熱源は小さな火の箱、すなわち火鉢で、人々はそのまわりに体を寄せ合い、燃える炭に手をかざして暖める」と日本人の生活を記録している。

底冷えする京では炭はさぞ貴重な熱源であつたろう。その炭にまつわる暮らしにも京らしい地味心がうかがえる。京の町屋には、躯体と屋根でできた雨風を防ぐだけのものだが、炭小屋が置かれていた。住人は必要のない夏に安く買って備蓄しておいた。準備万端、冬を迎えるため、寒くなってから慌てふためくということは決まらなかった。京の始末は、無駄金を使わないことだけではない、心にゆとりをもたらすものだったのである。

INFORMATION

行政からの お知らせ

ペットボトルと紙パックの回収が 10月よりスタート 分別ごみ収集が本格的に

本年4月1日から施行された容器リサイクル法を受けて、全国の自治体で対象品目である缶（アルミ：スチール）、びん（白色・茶色・その他色）、ペットボトルなどの分別収集が進む中、京都市清掃局では、10月よりペットボトルと紙パックの資源ごみ収集を始める。収集は全市域を対象に実施する。分別方法、回収日など、詳しくは、市民しんぶん等で案内することになっている。



不用品を周りにコミュニケーションが始まる

平成9年度全市キャンベーン事業 「フリーマーケットinキリンビール開き'97」 買う人、売る人、 1日中にぎわった。

要らない物を要る人に販売するフリーマーケットは、合理的なごみ減らし策であり、京都市ごみ減量推進会議も柱となる事業として取り組みたいところ。あちこちで開催され、人気を集めているが、未経験なだけにどうなることやら…。全市キャンベーン実行委員が中心になって、手探りで取り組んだ初のフリーマーケットの動きをご報告。



ハンガーを転がしブースに向かう出店者

6月1日曜日、朝から真夏を思わせる暑い日差しが降り注いでいた。午前7時、早出のスタッフ約12名が受付、駐車整理、ブース整理など、それぞれに準備にかかっている。午前8時前、受付開始を待たずに出店者がぞくぞくと到着。車から、荷物を降ろし、受付を済ませると割り当てられたブースへと急ぎ出店の準備を整え始める。台車を転がす家族、ハンガーを引く女性…。シートを敷いて商品を並べていく。洋服店あり、陶器あり、CDやインテリア小物、アクセサリー、本、おもちゃなど並べた店あり。午前10時にはお客がぎっしりかきこまれた。

そくそく詰めかけのお客。買い手と売り手の会話も弾んで

「うん、おもしろいね、1000円は



「100円よ! 買わない!」と声を上げる売り手

えび…。このあいだも、買わへん!」かわいいわね、やめとわ。…金銭がほんまに飛び交い、フリーマーケットは大にわいわい。会場がキリンビアパークの裏門近くだったので、集客を心配する声もあつたが、心を静けをどか吹っ飛ばし、キリンビールが立て看板を準備してくれたこともあり、イベント自体も盛り上がり「キリンビール開き'97」が、人があふれてまく、売れ行きがいい店はすぐに品切れ。午後になって人も、人、人でいっぱいになっていた。

芝田直樹さんの仕事があきつかけにあって、多くの人が係わり実現した。

初のフリーマーケットは、全市キャンベーン実行委員、芝田直樹さん（KBS）(株)京都放送ラジオ(産業)の仕事があきつかけになって開催された。キリンビール産地工場で、毎年開かれている人気イベント「キリンビール開き」に「関わって」いよる芝田さん。工場での情報担当部長、須藤さんなど、今人気のフリーマーケットを聞けないかの相談を受け、ご承諾をいただけた。ご承諾をいただけた。事業としてこのイベントを開催するチャンスとと見え、3月の全市キャンベーン実行委員会に提案し、準備が進められた。経歴不足をカバーするため、使い捨て時代を生きる会・志願者さんとの紹介で、フリーマーケットのエキスパートである中川高志さんに助言を仰いだ。広報活動も実行

した。芝田さんが所属するBSで出店者を呼びかけ、「キリンビール開き'97」全体の宣伝活動にも使えた。京都新聞にも掲載された(6/7付)。受け入れ体制として、5月1日・16日また格致小学校の1室を借り臨時事務局を設置。電話での問い合わせ、応募はがきその受付を行った。まずは成功裡に幕を閉じた。スタッフの皆さんご苦労様でした。

初のフリーマーケットの総数は11か所、応募数276件、抽選による当選者18名(応募率34倍)、出店7店。当日の入場者は、約8,000人(事務局発表)。キリンビール開き'97の動員数は23,000人であり、その95%が参加したことになる。まずは成功だったといえる。

フリーマーケットは、また「市」・物や流通行き交いだけでは、人と人との交流に積極性があふ。よちよちあまみで、市民、事業者、行政の三者といふまでにならない体制を持つ京都市ごみ減量推進会議にとって今回のフリーマーケットは、人と人との交流を深め、市民のつながり、大きなステップとなった。

ひとことコメント
「出会い」を楽しみながらごみ減量。
それがフリーマーケットの魅力です。

中川高志

ひょんなことから、この私に「フリーマーケットの手伝い」との声がかかり、スタッフの1人として参加しました。当日はお天気に恵まれ、大に盛り上がりました。フリーマーケットの昨今の人気の高さには、驚かされ、モノが破格の値で手に入るということだけでなく「買い手」も「売り手」もともに楽しんでいる出来ると人と人との出会いがあるからだろう。そんな「出会い」を通して、押しつらくなるのではなく、それそれぞれが喜んでいる中から問題を考えていければステキだと思っております。

左(通常のごみ箱)は各人に1個、ま中人(青色)と(黄色)は2~3人に1個が配られる。

⊕ 島津製作所

「京都市ごみ減量推進会議」が発足して9か月、現在、133に達している会員それぞれにごみ減量への取組があり、工夫と知恵があるに違いない。活動状況をお互いに公開し合うことにごみ減量への取組がさらに知恵あるものとなればと、訪ねてきました。

島津製作所

Q 貴社では、ごみゼロを掲げ徹底分別ごみ収集をとりサイクルに取り組むおられるそうですねです。どのような方法で実施されているのでしょうか？

A 全世界共通の願いである地球環境保全のため、現に社員一人ひとりが奮起するため、個人レベルで紙ごみを減らそうと独自の体制を組み、分別ごみ収集を進めています。1992年から始めたのですが、年々浸透し、96年通期で紙ごみのリサイクル率は66%になりました。当社のポイントは色分けした分別箱を活用したことです。社員2~3人で青と黄の分別箱を各1個、一人ひとりが赤いごみ箱(個人の氏名入り)1個を使っています。青い分別箱には、コピー用紙を、黄のごみ箱にはパンフレット、チラシ、伝票類を入れ、資源ごみとして再生に回しています。赤い分別箱には、燃焼紙、窓あき封筒など再生できないごみを入れ、廃棄しています。

こうして分別したごみは、各フロアに2カ所もある4段ボックス(2次集積所)から、中央集積所(3次集積所)へ集められ、紙類の却向庫に回収され、製紙メーカーへと運ばれ、再紙の原料となる仕組みです。

Q 大勢の社員の方がおられる中、徹底させるのがむずかしかつたのでは？

A 当社正業工場の社員は、約2,500人、全員に浸透させるのは大きな課題でした。中途半端では行き届かない、全社的な運動として展

開しなくてはとの方針から、昨年、150名のエコリーダーを置き、チェック体制を整えてきました。エコリーダーはバッジをつけ、分別ごみの協力状況を週に1回パトロールします。ガムテープのついた紙が青のごみ箱に入っていたら注意して、赤のごみ箱に入れるよう指導したり、青のごみ箱にカラーコピー紙を見つけたら、黄色のごみ箱に移すよう助言しています。上司であろうと遠慮はしません。紙ごみは資源であること。資源にならないものだけを廃棄すること。そして、できるだけごみの発生を抑制すること。紙ごみに対する社員の意識を改革するのが最も大きなテーマだったといえます。

Q 貴社では、産業廃棄物の分別ごみ収集にも取り組んでおられると聞きましたが？

A 地球環境保全に積極的に取り組もうと、97年2月から工場内で発生する産業廃棄物も分別しています。工場内に産業ステーションを設け、色別のごみ箱を活用して分別収集を行っています。現在、産業ステーションを3カ所設け、金属のみ、ガラス・陶磁器など、6種類の分別ごみ分別収集し、中央集積所に集めた上で、それぞれのリサイクル業者に引き取ってもらっています。こちらも産業リーダーがいて、バッジをつけチェックしたり指導したりして徹底するよう努めています。

Q 島津製作所全体の環境活動はどのようなこととをされているのですか？

A 当社の経営理念は、「人と地球の健康」への願いを実現するというものです。その理念に基づく企業活動の一環として環境委員会の下に、5つの環境専門部会(廃棄物、環境対策、省エネルギー、製品、梱包材料、オゾン層破壊)を組織

し、各部門に対して、多岐にわたる取組を推進しています。96年4月には、環境管理室も発足、ごみの分別収集はもとより、LCRAライフサイクルアセスメント)の手法をとり入れるべく情報収集も行っています。環境宣言NEWSを発行し、常に情報提供と発表を行っています。

また、地域社会への貢献として門牌運動を実施、毎月1回三条工場敷地周辺の道路、公園などの清掃を行っています。当社近くを流れる御室・天神川の流域企業によって、19年前に結成された「御室・天神川を美しくする企業協議会」へ、幹事会社として参加し、河川美化活動にも協力しています。



エコリーダーのバッジ

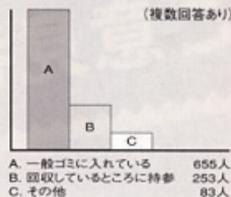


ごみ分別促進のためのポスター
3色のカエルがキャラクター

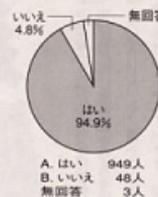
(株) 島津製作所

本社所在地 京都市中京区西ノ京
桑原町1番地
資本金 16,824百万円
(平成9年3月31日現在)
事業内容 計測機器、医用機器、
航空・産業機器の製造
及び販売

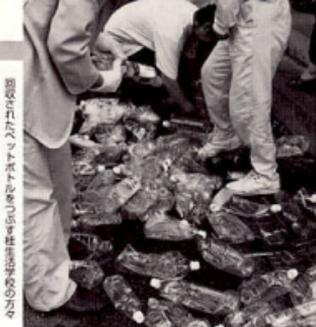
ペットボトルはどのように処理していますか？



ペットボトルを近くで回収してくれるなら協力しますか？



平成7年5月アンケート調査より



回収されたペットボトルを示す桂生活学校の方

京都府生活学校連絡協議会 桂生活学校

桂生活学校とは？

A 昭和39年頃、できた全国組織の団体です。桂生活学校は昭和51年に開校して主に環境問題、高齢化問題について活動しています。今年4月から施行された賞状制度の表示や、遺子細み替えなどについても勉強しています。この2月に各宮路リサイクル法の施行に先駆けてパネルドイスカッションやリサイクル素材を用いたエコファッショニングも開催したんです。

Q ペットボトルのリサイクルに取り組んでおられると聞きましたが、いつからはじめられたのですか？

A 平成8年3月から桂商店の協力を得て、事務所前をお借りしてスタートしました。毎月第4月曜、午前9時～3時まで実施しています。月平均2,000本、累計して2万4,000本回収したことになります。桂生活学校と隣接アリス生活学校の分を合わせ、ペットボトル再生の先駆・根拠産業久御山工場に運び込む仕組みを進めています。回収後、ペットボトルは細かく砕いてリベットにされシャンプーの容器、カーペットや衣類の素材として活用されています。私と成りの団体と地域の商店、事業者の三者の連携でもり立っている回収システムです。

Q 実際にはじめてみて問題点とか、地域住民の方の反応はどうでしょうか？

A 回収を通して桂地区2,500世帯に知らせ、当初からかなりの協力があるので驚いています。回収をマスコミやロコミで知り、わざわざ山科あたりから持ってくる方もあります。出し方は、中を洗って、フタを取って、ラベルをはずして持ってきてもらいます。それとターカ側には、PETではないため、再生不能のものもあります。それに、再生ペットボトル素材で作られた製品には、堂々とマークを付けて販売してほしい。消費者に再生品はいいというイメージがあるということ、マークがとられてしまうケースがあるのは、残念な気がします。

Q ペットボトルのリサイクルに取り組まれたきっかけは？

A ペットボトルが急増しているにも関わらずリサイクルシステムが確立していない現状を見て、なんとかできないかとアンケート調査を行いました(平成7年5月1,000名を対象に実施)。その結果、ペットボトルを一般ゴミに出している人が、66%もある一方、回収システムがあれば協力を惜しまないという答えも94%も寄せられました。それなら、多くの協力が得られると私たちの組織で回収することに決めたのです。はじめは、500本位で、回収もワゴン車だったのが、今は同生活学校で4,000本になり4トントラックで運搬しなくてはならないまでに達しました。

Q 今後はどんな活動を予定されていますか？

A ペットボトルに関してはデポジット制を復活させたいと考えています。酒屋さんの店

頭で実現できると両来店の動機づけにもなっているのですが…。空き缶のように条例化されると、ペットボトルのごみはぐんぐんと減るにちがいありません。ごみ問題をはじめ、環境問題、高齢化などに私たちの目標で取り組んでいきたいですね。

●お話しいただいた人
京都府生活学校連絡協議会 会長 中島 和子



会長の中島和子さん(再生素料のペットボトルを回収するリベット工場前)

京都府生活学校 連絡協議会

〒615 京都市西京区桂木ノ下町1-27
☎075-381-3333
会長 中島和子
1976年(昭和51年)開校。ビンのリサイクル環境、生活に根ざした環境運動の実践を重ねてきた。今後は介護保険の問題などにも取り組む予定にしている。

